

# 中国語形容詞の時間表現に関する一試論

## —日本語との対照研究から—

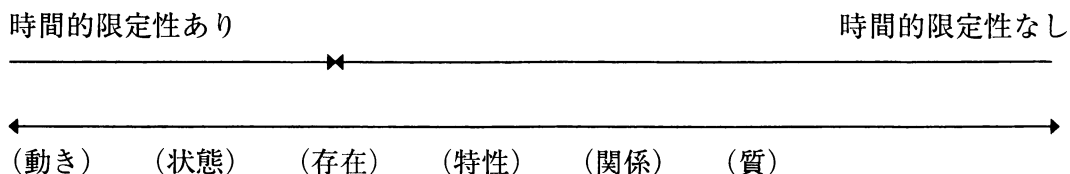
高 立 偉

日本においても中国においても数多くの研究者が中国語の形容詞について研究を進めてきた。しかし、形容詞の時間表現に関する研究は少ない。中国語自体での研究が少ないばかりでなく、日本語との対照研究はさらに少ない。筆者は中国語形容詞の時間表現に関わる研究を日本語形容詞との対照研究において進めている。ここには研究の一部を一つの試論として提出してみたい。

### 1 形容詞の恒常性と一時性

八亀(2007: 65)は日本語の「動詞・形容詞・名詞の三つの品詞が連続的である」と述べ、図1のように、「時間の限定性がある(個別・具体的な現象)」ものから「時間の限定性のない(一般的・恒常的な本質)」ものへと連続的な様相が見られるとした。

図1 時間の限定性の変化



日本語には、時間の限定性のある動詞から形容詞へ、形容詞から時間の限定性のない名詞へと連続的な転換があるとされるが、八亀の理論は中国語にも適用できるであろう。これをもとに中国語の動詞、形容詞、名詞を検討してみれば、動詞は「動き、状態」を表し、形容詞は「状態、存在、特性、関係、質」を表し、名詞は「特性、関係、質」を表すものと言える。動詞と形容詞、形容詞と名詞の間に、共通する部分もあるが、そのはっきりとした境界はない。そこで「時間の限定性のある」ものから「時

間の限定性のない」ものへの変化を次のような図示においてとらえる。

動詞 → 形容詞 → 名詞

形容詞の大多数は「性質形容詞」に属し、もともと質を表すため、時間性とは関係がないと思われているが、本当に「性質形容詞」は時間性と関係がないのかどうか、改めて考えてみる必要がある。本稿において考察してみたい。

形容詞のもう一つの種類である「状態形容詞」は、状態・変化を表すので、一時性があるのは当然であるが、「性質形容詞」は時間の変化とは無関係で、恒常性があるというのが一般論である。しかし、今泉（2003：181-183）は「形容詞は質的に把握するだけのものではなく、出来事として把握しなければならない場合もある」と述べ、「相対テンスをとる」場合があるとも述べている。

日本語の形容詞は質として扱われる場合はイ形で現れ、出来事として扱われる場合はタ形でも現れる。中国語の形容詞は語尾の変化がないので、どのように把握すればよいのかが問題になる。

- (1) 红苹果。(赤いリンゴ。)
- (2) 上周在超市买了红苹果。(先週スーパーで赤いリンゴを買った。)
- (3) 他现在正在吃红苹果。(彼は今赤いリンゴを食べている。)
- (4) 下周去买红苹果。(来週は赤いリンゴを買いに行く。)

上の例は(1)から(4)までいずれも「红苹果」(赤いリンゴ)であり、質として扱われているが、よく考えてみると、やはり(1)は他の例と違うであろう。(1)の「红苹果」の「红」は質として扱われ、時間に関わらないリンゴの色を表す。この時の性質形容詞は時間の変化に関係がない、恒常性を表している。しかしながら、(2)～(4)で見ると、性質形容詞の恒常性も厳密には絶対ではなく、ある時点での相対的な恒常性、つまり一時性のものと言えよう。

## 2 「性質形容詞」と「状態形容詞」の時間性

前節において形容詞の恒常性と一時性について述べたが、いったい形容詞における恒常性と一時性の使い分けはどのような状況であるのかについて考えてみたい。従来、中国語の形容詞は「性質形容詞」と「状態形容詞」に分けられてきたが、近年、形容詞を以下のように分類する張（2006）のような研究も出てきている。

表1 形容詞の分類（張：2006）

形容詞	静態形容詞	性質形容詞（例： 高、重、旧）
		状態形容詞（例： 雪白、巨大、順利）
	動態形容詞	変化形容詞（例： 少、急促、缓慢）

しかし、このような分類はまだ十分ではないように思われる。従来、「少、急促、稀薄」のような変化を表す形容詞は「状態形容詞」に含まれていたが、この張（2006）の分類では、「急促」のような瞬間変化、「缓慢」のような延続変化を表す、時間性のある「変化形容詞」は、「状態形容詞」から取り出されて「動態形容詞」として扱われることになっている。これについて、「変化形容詞」は本当に「静態形容詞」ではなく、「動態形容詞」に分類できるものなのかという疑問が生じる。単純にこのように「静態形容詞」、「動態形容詞」という項目によって二つに分類した場合、理解しにくく、混乱を招く懸念がある。

「性質形容詞」と「状態形容詞」の間には、相互転換の関係があるので、ここで相互転換に触れておきたい。

- (5) 红的苹果。(赤のリンゴ。) [名詞] (状態)
- (6) 红苹果。(赤いリンゴ。) [性質形容詞] (結果状態)
- (7) 苹果红了。(苹果在变红。)(リンゴは赤くなっている。)[状態形容詞] (過程)
- (8) 苹果红了。(リンゴは赤くなった。)[状態形容詞] (結果)

(5)の「红」と「赤」は中国語も日本語も名詞であり、指定の機能がある。(6)の「红」と「赤」は中国語も日本語も形容詞であり、描写機能・限定機能がある。(7)と(8)では、中国語の「红了」は形容詞であるが、日本語の「赤くなっている」、「赤くなった」は動詞と共に用いられている。

次に、(6)と(7)の「红」はいずれも形容詞であるが、(6)の「红」はリンゴの色を表し、(7)の「红」はリンゴの赤くなっている状態を表す。つまり、(6)の「红」は「性質形容詞」に属し、(7)の「红」は「状態形容詞」に属する。(7)「リンゴは赤くなっている。」は変化の過程、(6)は「赤くなっている」の結果として赤いリンゴになったことを表している。ここで(7)から(6)へと、連続しつつ形容詞の性質が「転換」したことが分かる。(8)は(7)の変化の結果を表し、(5)と(6)は(8)の結果の状態を表す。

### 3 形容詞と動詞の時間的連続性

八亀（2007：65）は「時間の限定性」を基準として、動詞・形容詞・名詞の間には、「動詞→形容詞→名詞」のような転換関係があると述べている。もっとも強い限定性のある動詞は「動き、状態」を表しやすく、もっとも弱い限定性のある名詞は「特性、関係、質」を表しやすいということである。しかしながら、動詞から名詞までの転換の中間過程にある形容詞はかなり複雑である。その中では、「動き、状態」に近い形容詞も、「特性、関係、質」に近い形容詞もある。本節では、形容詞の「動き、状態」から「特性、関係、質」までの間にどのような転換があるかについて考察する。

形容詞と動詞には共通性があると思われるが、これは一部の動詞性を持つ形容詞のみ（いわゆる「状態形容詞」）であろう。そもそも、時間の連続の中で、形容詞と動詞との境界がどのようにあるのか、形容詞と動詞が表せる時間の長さは何のくらいであるのかの検討をする必要がある。

- (9) 我的头开始痛了。(森) (私の頭が痛くなった。私は頭が痛くなった。)
- (10) 段莉娜在这两个月之内消瘦了许多。(来) (この二ヶ月の間に、段莉娜はかなりやつれた。)
- (11) 戴晓蕾的脸也明亮起来。(来) (戴晓蕾の顔も明るくなってきた。)
- (12) 这一道波峰又平缓了下去。(来) (波の山はまた緩やかになった。)
- (13) 康伟业在李大夫走了之后也慢慢地镇定下来。(来) (李先生が帰った後に、康伟业も落ち着いた。)
- (14) 而其中却只充满着黑暗。(森) (その中はただ暗黒が満たしている。)

上の例で、「痛」、「消瘦」、「明亮」、「平缓」、「镇定」、「充满」は形容詞であるが、後に「了」、「起来」、「着」などの語が付いて、時間的な変化を表している。このような変化について、張（2006：256-263）は「事件の表述への視点は開始点或いは終結点に決められる。(略) 経歴体である過は開始点にあり、実現体である了は終結点にある。起来は開始点にあり、下来は終結点にある。下去と着は変化の過程にある。」と述べている。張を代表とする中国語形容詞の研究では時間性がある形容詞はすべて動詞と同じように扱われている。

### 4 形容詞と動詞の時間解釈

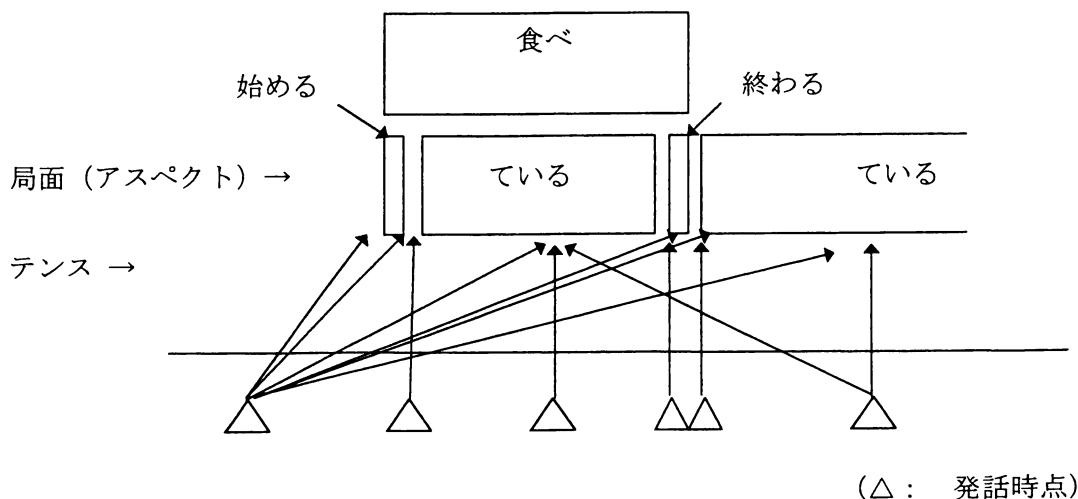
動作は時間性から考えてみると、ふつう「動作の開始」、「動作の進行中」、「動作の終了」、「結果の状態」のような四つの局面がある。例えば、「食べる」（「吃」）という

動詞は、「食べ始める」、「食べている」、「食べ終わる」の三種類の局面と、結果の状態としての「食べている（食べてある）」の局面を持っている。この局面のあり方は図2のように示すことができる。

図2では、局面（アスペクト）表示に加えてテンス表示もしてある。テンスは過去（左向き矢印）、現在（上向き矢印）、未来（右向き矢印）の三つに分けられ、それぞれにおいて動作の局面、すなわち、開始、進行中、終了、結果状態をとらえることができる。

ここで興味深いのは、形容詞も図2の動詞のように扱うことができるのではないかということである。

図2 動作の局面とテンス



日常生活での動作や自然現象では、一つの動作・出来事を一つの単純動詞だけで表現するほかに、関連のある動詞、及びほかの品詞と組合せて、一連の事態として表現することができる。中国語で考えれば、例えば、「肚子饿（お腹が空く）、做饭（ご飯の支度をする）、吃饭（ご飯を食べる）、肚子饱（お腹がいっぱいになる）」のように。お腹がすいたと感じた後、ご飯の支度をして、ご飯を食べる。ご飯を食べた後お腹がいっぱいになる。このように、時間の流れのなかで、一つの動作（ご飯を食べる）を中心に、時間的関連性のある動詞や形容詞（状態形容詞）がいくつかの異なる段階に組み入れられる。

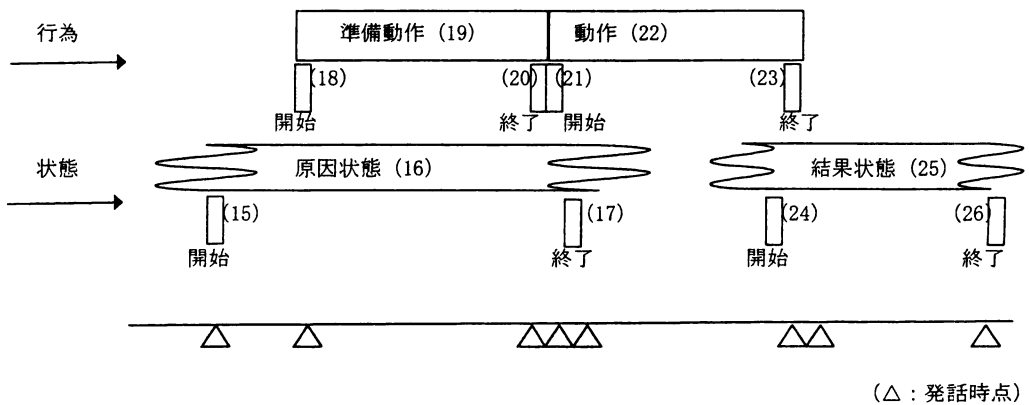
この「肚子饿、做饭、吃饭、肚子饱。」を例として分析してみたい。

- (15) \*开始肚子饿。(お腹がすき始める。)
- (16) \*正在肚子饿。(お腹がすきつつある。)
- (17) \*结束肚子饿。(\*お腹がすき終わる。)

- (18) 开始做饭。(ご飯の支度をし始める。)
- (19) 正在做饭。(ご飯の支度をしている。)
- (20) 结束做饭。(ご飯の支度をし終わる。)
- (21) 开始吃饭。(ご飯を食べ始める。)
- (22) 正在吃饭。(ご飯を食べている。)
- (23) 结束吃饭。(ご飯を食べ終わる。)
- (24) \*开始肚子饱。(お腹がいっぱいになり始める。)
- (25) \*正在肚子饱。(お腹がいっぱいになりつつある。)
- (26) \*结束肚子饱。(\*お腹がいっぱいになり終わる。)

上例 (15) から (17) は「肚子饿」(お腹が空く) の状態、(18) から (20) は「做饭」(ご飯の支度をする) の動作、(21) から (23) は「吃饭」(ご飯を食べる) 動作、(24) から (26) は「肚子饱」(お腹がいっぱいになる) の過程のそれぞれを表し、「お腹が空く」から「お腹がいっぱいになる」までの時間の連続を表している。(15) から (26) までの例を時間のモデル図上に示せば、図3のようになる。

図3 行為と状態の関連図



例文 (15) ~ (26) のうち、冒頭に「\*」が付けられているものは、訳文の日本語としてはおかしくなくとも、中国語の文としては不自然であるものである。なぜ「\*」のある文はおかしいのかについて、次の節で考える。

この時間のモデル図の中には、いくつか重なりそうな部分がある。(17) と (21)、(23) と (24) はほとんど同じ時間での状態及び動作を表している。(17) と (24) の状態変化 (開始・終了) の時点ははっきりしない。これに対して、異なる動作を示す (20) と (21) では、二つの動作の境界は基本的には特定できる。

また、「肚子饿→做饭→吃饭→肚子饱」は一回の「饿」から「饱」までの連続を示しているが、このあと、時間が経つと共に、さらに「饱」の状態から「饿」の状態へ

変化していく。すると再び「肚子餓→做饭→吃饭→肚子飽」のように同じ状態と同じ動作が繰り返されることになる。

以上は「肚子餓了、准备做饭、开始吃饭、肚子飽了」を例として、状態と動作の時間的な連続性について述べたものであるが、実際の日常生活の中にはこのような例はたくさんある。

## 5 状態形容詞と動詞、動詞と動詞の境界

前節の「肚子餓→做饭→吃饭→肚子飽」の連続を、次のように形容詞と動詞の時間的な連続としてとらえてみたい。

肚子餓	→	做饭	→	吃饭	→	肚子飽
(状態) 形容詞 I	→	動詞 I	→	動詞 II	→	(状態) 形容詞 II
[原因状態]		[準備動作]		[動作]		[結果状態]

ここの(状態)形容詞 I を「原因状態」を表すもの、(状態)形容詞 II を「結果状態」を表すものとする。動詞 I は動詞 II の準備段階のものであるため、動詞 I を動作の「準備動作」を表すもの、動詞 II を「動作」を表すものとする。以上の状態形容詞と動詞の連続過程は、図 3 に基づいて以下のように示すことができる。

原因状態開始→原因状態→準備動作開始→準備動作進行中→準備動作終了  
(形容詞 I) (形容詞 I) (動詞 I) (動詞 I) (動詞 I)

→動作開始→動作進行中→動作終了→結果状態開始→結果状態→結果状態終了  
(動詞 II) (動詞 II) (動詞 II) (形容詞 II) (形容詞 II) (形容詞 II)  
(原因状態終了)

この連続過程には次の 4 点の特徴が見られる。

- ① 原因状態の開始点と結果状態の終了点はふつう特定できないことが多い。
- ② 準備動作の終了点は動作開始点とほぼ同じであることが多く、境界は特定しやすい。
- ③ 人間行為・自然現象の種類によって、行為・事態生起の時間的長さは一律ではない。
- ④ 関連する状態・出来事は一連の過程のセットとして、時間をおいて繰り返されることがある。

前節で挙げた次の例の非文性は①に関係している。

- (15) \*开始肚子饿。(お腹がすき始める。)
- (16) \*正在肚子饿。(お腹がすきつつある。)
- (17) \*结束肚子饿。( \*お腹がすき終わる。)
- (24) \*开始肚子饱。(お腹がいっぱいになり始める。)
- (25) \*正在肚子饱。(お腹がいっぱいになりつつある。)
- (26) \*结束肚子饱。( \*お腹がいっぱいになり終わる。)

「原因状態の開始」「結果状態の終了」の特定の時点は認めにくいのであり (①)、これを「開始」「結束」で表現しようとするのが不自然になるのである。もちろん、「开始感觉肚子饿了。」(お腹がすいたと感じ始める。)とは言えるが、ここの「感觉」は動詞としての扱いになっているためである。「感じる」特定の時点は形容詞よりははっきりとしていることになる。単純な状態形容詞を使う場合は、「開始」、「正在」、「終了」などの時間詞との結合が、文法上では成立するが、やはり表現としては不自然になる。

中国語で形容詞ではあっても、日本語の訳文では、「すく」、「なる」の動詞になっているので、日本語としては不自然になっていない。

## 6 出来事の中での形容詞と動詞との時間的な連続

前節では「肚子饿、做饭、吃饭、肚子饱」を例として時間的な連続性のある形容詞と動詞を分析し、さらに、人間の行為と自然現象における形容詞と動詞の関連を図3のように示した。この節においては、図3のモデルでとらえられる別の状況を考えてみる。すなわち一連の過程の中で、時間のあり方との関わりにおいてとらえられる事態を表す語を使用し、具体的に考察する。

人間の日常の衣・食・住・行の生活と自然現象の中には、時間的な形容詞とそれに関連する動詞が少なくない。どのような形容詞と動詞の間に時間的な関連があるかについて例を示す。

- (27) 感觉冷。(寒い。)
  - 开始找衣服。(服を探して決める。)
  - 穿衣服。(服を着る。)
  - 感觉暖和。(暖かくなる。)
  
- (28) 身体脏。(体が汚い。)
  - 准备洗澡。(お風呂の準備をする。)
  - 洗澡。(お風呂に入る。)



身体干净。(体がきれいになる。)

(29) 感觉热。(暑い。)

寻找空调遥控器。(エアコンのリモコンを探す。)

开空调。(エアコンの電源をつける。)

感觉凉快。(涼しくなる。)

(30) 走路累。(歩いて疲れる。)

上车。(車に乗る。)

坐车。(車で移動する。)

不累。(疲れがとれる。)

(31) 天气凉。(寒い。)

日出。(日が出る。)

太阳升起来。(日が一定高度まで昇る。)

天气暖和。(暖かくなる。)

(32) 苹果是青的。(リンゴが青い。)

苹果生长。(リンゴが成長する。)

苹果成熟。(リンゴが熟する。)

苹果是红的。(リンゴが赤い。)

以上の例に基づいて考察すると、一連の事態の中の形容詞と動詞は以下の特性を持つことが分かる。(①～④の項目そのものは5節に記載したものと同一である。)

① 原因状態の開始点と結果状態の終了点はふつう特定できないことが多い。

原因と結果が状態である場合、状態の開始および終了の時点が特定できない場合が多い。例えば、「寒い、暖かい」、「汚い、きれい」、「暑い、涼しい」、「疲れる、疲れがとれる」、「寒い、暖かい」、「青い、赤い」のように、状態の変化の開始と終了の時点が特定しにくいことが多い。

② 準備動作の終了点は動作の開始点とほぼ同じであることが多く、境界は特定しやすい。

状態の境界が特定しにくいことに対して、人間行為・事態生起の開始と終了の

時点は特定しやすい。例えば、「服を（探して）決める、服を着る」、「お風呂の準備をする、お風呂に入る」、「リモコンを探す、電源をつける」、「車に乗る、車で移動する」、「日が出る、日が一定高度まで昇る」のように、それぞれの開始と終了時点は明確であり、かつ二つの動詞の境界も明確である。ただし、「リンゴが成長する、リンゴが熟する」のように必ずしも特定しやすくないものもある。

③ 人間行為・自然現象の種類によって、行為・事態生起の時間の長さは一律ではない。

当然のことではあるが、行為や事態生起における時間の長さは一律ではない。例えば、「電源をつける」、「車に乗る」、「日が出る」のようなほぼ瞬間的な行為・事態生起もある一方、「リンゴが成長する、リンゴが熟する」のように、一定の時間を必要とする行為・事態生起もある。

④ 関連する状態・出来事は一連の過程のセットとして、時間をおいて繰り返されることがある。

「寒い、服を決める、服を着る、温かくなる」のように、形容詞→動詞→動詞→形容詞の一連の過程があるが、このような関連性のある形容詞と動詞が1セットの単位として時間をおいて繰り返されることがある。

## おわりに

本稿においては、形容詞の時間表現と解釈について分析を試みた。

時間性に基づいて中国語形容詞の分類を再確認し、非時間性（恒常性）の性質形容詞と時間性（一時性）の状態形容詞との関係を考察した。性質形容詞と状態形容詞には連続性があり、相互転換することができる場合がある。また、非時間性と時間性両方の特性を持つ形容詞は性質形容詞と状態形容詞の兼類であると考えられる。

形容詞と動詞の具体的な出来事としての時間関係も考察した。関連のある形容詞と動詞を「原因状態、準備動作、動作、結果状態」のように位置づけ、時間の流れの中に置いて考察した。動詞は境界点がはっきりしているが、状態形容詞の境界点は特定しにくい。

中国語の形容詞における時間表現はかなり複雑であるので、いくつかの局面があるものとして扱うことも考えるべきかもしれない。今後は中国語形容詞の時間表現を適切に扱えるようにするために、ほかの品詞との時間的な関係も視野に入れつつ、研究を進めていきたい。

## 参考文献

- アン・Y・ハシモト 1985 『中国語の文法構造』 白帝社
- 井上 優 他 2002 「テンス・アスペクトの比較研究」『言語情報シリーズ対照言語学』(2002) 所収 東京大学出版会
- 今泉 喜一 2003 『日本語構造伝達文法 発展 A』 揺籃社
- 今泉 喜一 2005 『日本語構造伝達文法 (改定 05 版)』 揺籃社
- 木村 英樹 1997 『橋本萬太郎記念中国語論集』 内山書店
- 金水 敏 他 2000 『時・否定と取り立て』 岩波書店
- 国立国語研究所 1971 『動詞・形容詞問題語用例集』 秀英出版
- 国立国語研究所 1972 『動詞の意味・用法の記述的研究』 秀英出版
- 国立国語研究所 1972 『形容詞の意味・用法の記述的研究』 秀英出版
- 国立国語研究所 1985 『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』 秀英出版
- C. E. ヤーホントフ 1987 『中国語動詞の研究』 白帝社
- 朱 徳熙 1985 『文法講義』 白帝社
- 盛 文淵 2006 『中国語におけるテンスの解釈』 東北大学国際文化研究科
- 孫 偉 2007 『現代中国語の時間表現』 杏林大学博士論文
- 張 国憲 2006 『現代漢語形容詞機能認知研究』 商務印書館
- 日中対照言語学会 2002 『日本語と中国語のアスペクト』 白帝社
- 村木 新次郎 1991 『日本語動詞の諸相』 ひつじ書房
- 劉 綺紋 2005 『中国語のアスペクトとモダリティ』 大阪大学出版会
- 劉 月華 1996 『現代中国語文法総覧』 くろしお出版
- 劉 月華 他 2001 『実用現代漢語語法 (増訂本)』 商務印書館
- 林 少華 訳 2001 『挪威的森林』 上海訳文出版社
- 呂 叔湘 1942 『中国文法要略』(呂叔湘全集 第一卷)(2002)  
遼寧教育出版社
- 1999 『中国語文法用例辞典』(2002) 遼寧教育出版社
- 八亀 裕美他 2007 『日本語形容詞の文法』 ひつじ書房

## 例文引用文献

- 池 莉 2000 『来来往往』 江蘇文芸出版社 (来) と表示する
- 林少華 译 1991 『挪威的森林』 上海译林出版社 (森) と表示する